

小瀬川の治水の歴史

弥栄ダムのある小瀬川は、流域面積342㎢、長さ59kmの河川で、その水源を冠山（1339m）・羅漢山（1109m）などの一連の中国山地に発し、いくつかの小さな支川を合わせながら2、3の小盆地を流れ、中流部にて広島・山口県境を南下し、支川の玖島川を合わせて蛇喰（へびく）・弥栄峡を形成し、弥栄において流路を東方に転じ、蛇行しながら、佐伯町（現廿日市市）、大野町（現廿日市市）、山口県の美和町（現岩国市）、岩国市、和木町、大竹市の2市4町（現3市1町）にわたる。

この川は洪水による災害が多く、古くから記録に残されている。特に江戸時代の安永、天保年間の被害は甚大であった。また、近年では明治17年、36年、37年、昭和3年、5年、16年、20年、25年、26年と相次いで大洪水に見舞われている。したがって、小瀬川の治水事業は江戸時代から広島・岩国両藩によって少しずつ行われてきた。また明治以降も広島・山口両県によって部分的に行われてきた。ところが、第二次世界大戦後の相次ぐ大水害、特に昭和26（1951）年10月のルース台風による洪水は、小瀬川流域の町村に大きな被害をもたらしたのである。このため、昭和39（1964）年、上流に洪水

調節の機能を持つ多目的ダムとして、小瀬川ダムが建設された。しかしルース台風による被害や、昭和47（1972）年7月にあった豪雨災害の状況からみても、小瀬川ダムだけでは洪水調節を行うには十分でなく、抜本的対策を講ずる必要が出てきたのも事実であった。

弥栄ダム建設の理由

小瀬川流域では、上中流部では主として農林業が営まれているが、下流部の大竹・和木・岩国周辺には、戦前より化学・製紙などの工場が立地し、戦後は石油関連工場が多く進出、一躍石油化学工業地帯へと発展してきた。これらの工業地帯への電力供給のため、支川の玖島川に水力発電専用の渡ノ瀬ダムが造られ、これを含む流域内の3発電所および流域外の1発電所において最大出力2万8740kWの発電も行

市制施行70周年連載企画

振り返る 70年

問い合わせ
企画財政課 ☎59-2124



われていた。このように小瀬川は、流域およびその周辺地域の社会、経済、文化の発展に大きく寄与していたが、将来の洪水の惨禍を排除することはもとより、都市用水の需要増大に対処するためにも、小瀬川の総合的な開発は緊急を要するとされ、弥栄ダムの建設が計画されることになったのである。

弥栄ダムは昭和46（1971）年4月に調査事務所が開設されてから20年の歳月と約1100億円の事業費をもって平成2（1990）年10月18日に竣工式を迎えた。このダムは、小瀬川の洪水調節および広島・山口両県の水需要に應えるため、堤高120m、堤体積155万m³、貯水量1億1200万m³と重力式コンクリートダムとしては、完成当時西日本随一の規模を誇ったダムであり、

東は広島市佐伯区、西は山口県熊毛郡、大島郡と広範囲に及んで上水道や工業用水として利用されている。

なぜ河川名が「小瀬川」に？

ところで、安芸と周防の国境は、古くから洪水などで川の流れが変わるたびに、紛争を繰り返してきたが、享保2（1802）年広島・岩国両藩の努力により、幾筋かに分かれて流れていた小瀬川を掘り割って一筋の川とし、そこに国境を画定させた。現在の小瀬川はほぼこの時の姿をとどめている。

また河川名については、広島藩では大竹川または木野川と呼び、岩国藩では小瀬川と別々に呼んでいた長い歴史があった。しかし、昭和43（1968）年に1級河川に指定され、下流部が国直轄で管理されることになると、これを機に河川名も統一される。「川の名称は河口に向かって右岸の地名を当てる」という国の行政上の原則に従って「小瀬川」の名称が採用された。その後建設省現国土交通省が木野地区内に「1級河川小瀬川」の看板設置を試みたが、木野地区住民が「木野川になるのなら喜んで土地を提供するが」と拒否したとの逸話もある。慣れ親しんだ「木野川」の名前にならなかった悔しさが伝わる話である。

弥栄湖スポーツフェスティバル

『弥栄湖スポーツフェスティバル』は、全国のダム所在市町村が、ダムとその周辺を活用したスポーツ・イベントなどを通じて連携し、地域の活性化を図るために、平成3（1991）年から始まった全国初のダムウォータースポーツを楽しむイベントだった。

平成3（1991）年8月10日、11日と2日間、弥栄湖周辺（大竹会場と美和会場）でボート、カヌー、マウンテンバイク、ドラゴンボート大会などのスポーツ競技、「ダム湖の活用と地域づくり」をテーマとしたシンポジウム、人気アイドルグループの忍者、演歌歌手の尾形大作と金田たつえをゲストに迎えた野外コンサートやカラオケ大会、花火大会などがあつた。大竹駅と会場を結ぶ臨時バスが30分間隔で運行され、多くの市民が楽しんだ。

平成4（1992）年からは、終日のイベントとなり、湖水ではドラゴンボート大会、シーカヤック体験教室、水上バイクショーなどのスポーツ競技が、湖畔のイベント会場ではキャラクターショー、カラオケ大会などのアトラクションやゲームなどが行われ、多くの人でにぎわった。午後8時から湖面を彩る花火でフィナーレを飾るなど毎年、弥栄湖周辺で行われる定番のイベントとなっていた。

第9回 弥栄ダムと 弥栄湖スポーツフェスティバル

大竹市の発展の源となった小瀬川。しかし、それは度重なる洪水との戦いの歴史でもありました。治水や都市用水供給のため建設されたダムを舞台にしたイベントを紹介します。

森と湖 弥栄湖フェスタ

また、平成14（2002）年7月27日、28日には『森と湖に親しむつどい』として、『森と湖 弥栄湖フェスタ』が開催された。『森と湖に親しむつどい』とは、国民が森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダムなどの持っている自然豊かな空間や社会



（上）弥栄湖スポーツフェスティバル
（中）マウンテンバイク（下）ドラゴンボート（左）人気アイドルグループ『忍者』のコンサート

生活に果たしている役割について、理解を深めることを目的として、昭和62（1987）年度から国土交通省および林野庁が毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定め、この旬間で、全国の管理ダムを中心に、ダム見学会などのイベントが行われる全国行事である。『弥栄湖スポーツフェスティバル』がスタートして9年目となる平成10（1998）年からは、少しマンネリ化してきたイベントの内容を刷新し、パークゴルフとブラックバス釣りのトーナメント、ミックス・ダブルステニス大会が新しく加えられた。しかし、その後ナックルフォア（ボート競技）などのスポーツ競技が、

一般にはなじみが薄く、次第に来場者が減少してきたことを受け、実行委員会内部でも費用対効果が議論されるなど、財政的に厳しい時代となってきた。そして平成19（2007）年に、『弥栄湖スポーツフェスティバル』はついに廃止となったのである。翌年からは岩国市美和町を主な会場にして、新しく『弥栄湖サマーピクニック』としてイベントが運営されたが、平成22（2010）年をもって廃止された。